

## [022] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10247>

---

出版情報：語文研究. 22, 1966-10-31. 九州大学国語国文学会  
バージョン：  
権利関係：



◇学会彙報

▼議義題目 昭和41年度第一期

- (大学院) 国語学特研(国語の変遷) 福田 教授  
 (大学院) 全 演習(万葉集卷十九) 全  
 (学部) 全 講義(国語学概論) 全  
 (全) 全 特講(漢字音と字音語) 春日助教  
 (学部) 全 演習(宝物集) 全  
 (全) 全 講義(国語史) 全  
 (大学院) 国文学特研(表現の時代性) 中村 教授  
 (全) 全 演習(山東京伝の作品) 全  
 (学部) 全 講義(近世小説史) 全  
 (全) 全 演習(近松の浄瑠璃) 全  
 (大学院) 全 演習(江吏部集) 今井助教  
 (大学院) 全 特講(源氏物語論) 全  
 (学部) 全 講読(枕草子) 全

▼昭和40年度卒業論文題目

- 宇津保物語に於ける皇統の人物について  
 —源氏物語との比較—  
 源雅忠女二条論  
 御伽草子における観音信仰  
 石川啄木論  
 俳文における漢文脈—風俗文選を中心に—  
 芥川文学における「死」について  
 出水 恭子  
 鐘江 征勝  
 赤尾千鶴子  
 井関 瑞江  
 井上 敏幸  
 海老井英次

- 「浜松中納言物語」に於ける夢・転生について 太田ふみ子  
 松浦宮物語の研究 熊谷 桂子  
 式子内親王研究 白山 法子  
 大斎院選子について 高山 典子  
 大田垣蓮月尼の研究 中留 誠子  
 伊曾保物語試論 中野 良子  
 平家物語研究—平家都落ちをめぐって— 橋口 晋作  
 芥川龍之介論 三嶋 讓  
 「源氏物語」に於ける六条御息所とそのものけについて 宮本 崇子

▼新年例会 昭和41年1月3日 於 文学部会議室

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表会 昭和41年5月22日  
 研究発表表

- 薄雪物語出典考 若木 太一  
 桜島忠信落書について 後藤 昭雄  
 「美子が葉」をめぐって 石川 八朗  
 日本霊異記の副詞 原 栄一  
 玉里文庫本古筆源氏物語について 徳満 澄雄  
 宮沢賢治と近代詩—「銅鑼」を中心として— 境 忠一  
 露伴の名人ものと禪 瀬里 広明  
 復述語文の仮説について—「見ゆ」の二面性— 春日 和男  
 総会 幹事の改選。今期新幹事を次の方々にお願ひすることに  
 なりました。

関東 寺園 司

関西 橋本元二郎

福岡 長 敬一郎、畑 茂、平井 秀文、井手 恒雄、

石川 八朗、船津 正明

長崎 井上 彰

鹿児島 上村 孝二

懇親会

於 サッポロピヤホール

▼西日本国語国文学会 昭和41年9月22・23日

於 九州大学文学部

研究発表(本会会員の分のみ)

黄表紙若干の考察

尾張蕉門の分裂と荷今の立場

幕末期佐賀地方に於ける助動詞について

三宝絵詞と日本霊異記

説話文型の崩壊

中山 右尚

石井 大

篠崎 久躬

原 栄一

春日 和男

▼受贈図書 昭和41年1月18月

善本写真集二十四、二十五

武陵集

後撰和歌集総索引

阿讃諸文庫国文学翻刻双書一―五

新抄日本文学

図書寮叢刊

欧洲紀行

早案集

天理図書館

西尾 精一

大阪女子大学

阿南工業高校専門学校

学 燈 社

宮内庁書陵部

遠藤 嘉基

白石 悌三

南予文学

伊予紀行文集

金毘羅船利生纒初編

春石段ゆるしの廓上

陸奥話記校本とその研究

九州文化史研究所蔵古文書目録六

紫式部

愛媛国語国文学会

愛媛国語国文学会

中村 幸彦

中村 幸彦

笠 栄治

九州文化史研究施設

今井 源衛

▼受贈雑誌 昭和41年1月16月

国語と国文学 116月、国語国文1216月、国文学解釈と鑑賞 216月、国文学解釈と教材の研究 217月、文学 216月、国学院雑誌 115月、学苑 116月、文献ジャーナル 1216月、八雲 125月、白路 113516月、日米フォーラム 1216月、肇国 315月、解釈 911315月、成城文芸 4142、人文論究(北海道学芸大学函館人文学会) 26、女子大国文(京都女子大学) 40、人文研究 3133、国文学叢(広島大学) 3940、立命館文学 2442452471250、論究日本文学(立命館大学) 2627、法政大学文学部紀要 11、文学論集(佐賀大学) 7、言語と文芸(東京教育大学) 43146、国文(お茶の水女子大学) 24、文芸研究(東北大学) 5253、文学論藻(東洋大学) 33、音声学会会報 120121、跡見学園国語科紀要 14、語文(日本大学) 23、金沢大学教育学部紀要 14文学・語学 3839、文化(東北大学) 34、文車(大阪大学大学院) 15、万葉 5859、田唄研究 9、国文学(関西大学) 39、能楽思潮 3436、国語学 6364、国文学論叢(竜谷大学)

愛媛国語国文学会

12、神戸外大論叢1、5、相模女子大学紀要22・23、言語文化（一橋大学）2、漢文学研究（早稲田大）9、連歌俳諧研究21・22、国語国文学（名古屋大学）17、文学会論集（甲南大学）28、大分大学学芸部研究紀要5、山口大学文学会誌2、島根大学論集15、女子大文学（大阪女子大学）17、近世文芸（日本近世文学会）12、龍谷学会紀要12、和洋国文研究（和洋女子大学）3、日本文学研究（大東文化大学）5、朝鮮学術通報II 6・III 1、駒沢国文4、国語国文研究（北海道大学）32、鶴見女子大学紀要3、上代文学研究会会報（東洋大学）15、人文論集（静岡大学人文学部）16、山口女子短期大学研究報告20、国文学研究（梅光女学院短期大学）1、愛媛国文研究15、金沢大学法文学部論集文学篇14、説林（愛知県立女子大学）14、清泉女子大学紀要13、王朝文学（東洋大学）12、佐賀大学人文紀要1、杉並高校紀要6、美夫君志9、山辺道（天理大学）12、愛知県立女子大学紀要、実践文学27、中国古典研究（早稲田大学中国古典研究会）13、甲南国文13、試論（甲南文学会）12、国語と教育（大阪学芸大学）、愛知大学国文学7、香椎瀉（福岡女子大学）11、国文学研究（早稲田大学）33、有明工業高等専門学校紀要1、日本文学誌要（法政大学）14、文芸研究（明治大学）14、人文研究（大阪市立大学）2、国語の研究（大分大学）1、別府大学研究論集1、人文論究（関西学院大学）1・2・4、金沢大学国語国文2、文芸と思想（福岡女子大学）、28滋賀大國文3、都大論究5、中央大学国文9、同志社大学人文科学研究所所報1、同志社国文1、国語学漢文学論叢（東京教育大学）11、鹿兒島

大法文学部紀要1、甲南女子大学研究紀要2、人文紀要（佐賀大学）2、ことば34、武蔵野女子大学紀要1、鹿兒島大文学科報告1、大谷学報1、3、大阪府立大学紀要14、静岡女子短期大学紀要12、玉藻（フェリス女学院大学）1、名古屋大学文学部研究論集文学14、言語生活4月、琉球方言7、日本文学ノート1 宮城学院女子大学、書陵部紀要17 訓点語と訓点資料32

行動主体の言語の場面に對する慎しみの表現である。」と仮定し、今昔物語集、平安時代の古記録の用例を検討して、この仮定によつて、単なる話手の聞手に対する自己卑下の表現であると解する時矛盾の起る例も説明のつくこと、自己卑下の表現であるとされた例も、この仮設に矛盾しないことを述べようとしたものである。更に素材間の上下関係によつて用いられていた「まかる」が言語の場という辞的なものとかかわりあいを持つに至つた過程、複合語をつくる際の「まかる」の独自性などについても考察を加えてみた。

平安時代の公卿の日記は解読も困難であり、又、夫々の日記の特性、表意識というものが充分に明らかにされていない今日、これを資料とすることは未熟な筆者にとつて大きな危険を冒すことにもなりかねないが、待遇表現というものは和文にのみあらわれるものではなく、従つてこれを論ずるにあつて和文にのみ終始し、このぼう大な資料を放置することは、ゆがんだ待遇表現体系をつくり出す原因にもなりかねないと思われるので、敢えてここにその一端を取り上げてみた。

〈新刊紹介〉

近世  
文芸

資料と考証

五号

山岡元隣 一 季吟との関係を中心に  
黒田如水の連歌

「おくのほそ道」細見

雲端につちふる

そぞろ神・歩き神・さわがし神／塩釜の明神大内

と氣比の明神／好風／「涼し」から「早し」へ

／「銀河ノ序」の十八里

細道／ものから／実を顕す／東坡詩と松島

象潟／富るものなれども志いやしからず／

よこたふ「きこゆ・はべる・そのかみ」と

宣長説／南郭の批評と素龍の跋

杉浦正一郎と私

野坡書簡集

其角伝書「正風二十五条」

翻刻「貝殻集」

貞門談林俳人大観・五

榎坂 浩尚

棚町 知弥

石川 八朗

初夫

白石 悌三

竹内 好

大内 初夫

中西 啓

今 栄蔵

今 栄蔵

今 栄蔵

発行／七人社（福岡市神屋町三の一、白石医院内）  
定価／五〇〇円（振替、福岡一五五六〇・七人社）

- (2) 前書二四頁
- (3) 日本文法通論七六一七七頁
- (4) 国語法要説―国語法研究六六頁
- (5) 文の陳述性について―国語国文才二十一卷才九号一一一頁
- (6) 国語学原論三五九頁  
前書三五九頁
- (7) 日本文法口語篇三三一頁
- (8) ソスジュールの *Tanque* と言語過程説―言語学の方法一九八頁
- (9) 国語法要説―国語法研究五頁
- (10) 日本文法通論八〇頁
- (11) 国語法要説―国語法研究六頁
- (12) 文と文節と連文節―国文法体系論二二三頁
- (13) 口語文法の単位―口語文法講座一〇一頁  
前書九九頁
- (14) 前書一〇二頁
- (15) 英語・日本語八五頁
- (16) 木枝増一高等国文法新講文章篇九七頁
- (17) 日本文法口語篇二六九頁  
前書二七四頁
- (18) 国語学原論三七六頁  
前書三七七頁

▼受贈抜刷 昭和41年1月～8月

元永元年十月二日内大臣忠通家歌合について

佐世保工専紀要2

助動詞「る」の用法

源氏物語の場面性の文芸的意義

愛媛大学紀要11

古今集教長註の註釈

北九州大学外国語学部紀要11

詠属のあゆひの性格―里言「タ」をめぐる

北九州大学教養部紀要2

日本靈異記の文体と訓読

大分工専研究報告2

高橋 和彦  
高羽 四郎

仲田 庸幸

佐田 智明

佐田 智明

原 栄一